

2010年末賞与の見通し ～ 小幅ながら2年ぶりのプラスに ～

- (1) **今冬の賞与を展望すると、民間企業の一人当たり支給額は前年比+0.8%**と夏季賞与の同+1.1%に続き、小幅プラスを確保する見通し(*) (図表1)。
(*) 厚生労働省「毎月勤労統計」事業所規模5人以上ベース。
- (2) **背景には企業収益の持ち直し**(図表2)。本年末賞与の動向を大きく左右する2010年度上期の企業業績は、製造業を中心に好調。もっとも、前年同期の大幅な落ち込みからの持ち直し幅としては小さく、全産業ベースでみると、リーマンショック前のピーク水準の7割程度にとどまる見込み。このため、**賞与も昨年の大幅減を埋め合わせるには至らず、水準としては1980年代前半並み**にとどまる見通し(図表3)。
- (3) 全体としてみれば、支給を再開する企業が増える結果、支給労働者数が前年比+1.4%となるため、**支給総額は14.2兆円と、前年比+2.2%増える見通し**(図表4)。
- (4) なお、国家公務員は、前年比▲8.1%と大幅な減少となる見込み。官民格差解消の一環として、支給月数が前年の2.20ヵ月分から2.00ヵ月分に引き下げられるほか、本年度4～7月分の俸給月額引き下げの調整が行われるため。

図表1 2010年末賞与の見通し

| | 民間企業 | | | 国家公務員 | 地方公務員 |
|-------------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 製造業 | 非製造業 | | | |
| 2009年夏季(実績) | ▲ 9.7 | ▲ 16.4 | ▲ 8.1 | ▲ 8.9 | ▲ 9.6 |
| 2009年末(実績) | ▲ 9.3 | ▲ 14.8 | ▲ 8.0 | ▲ 6.6 | ▲ 7.3 |
| 2010年夏季(実績) | 1.1 | 3.9 | 0.5 | 0.7 | ▲ 0.7 |
| 2010年末(予測) | 0.8 | 1.3 | 0.7 | ▲ 8.1 | ▲ 8.1 |
| 支給額(万円) | 38.3 | 45.8 | 35.0 | 59.4 | 55.8 |

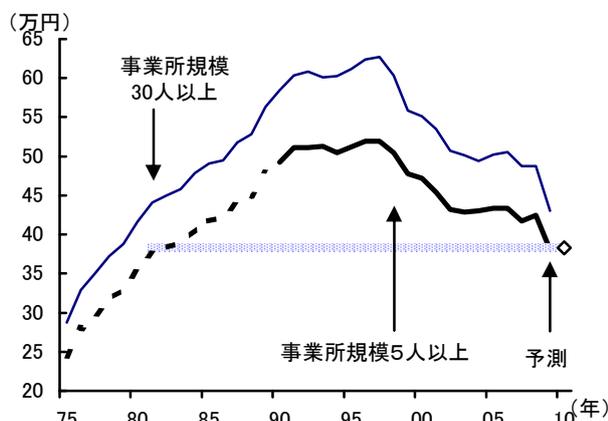
(資料) 厚生労働省、総務省、人事院
(注) 予測は日本総合研究所、以下同じ。

図表2 経常利益の見通し(日銀短観9月調査)

| | 大企業 | | 中小企業 | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 製造業 | 非製造業 | 製造業 | 非製造業 |
| 09年度上期 | ▲ 82.4 | ▲ 23.3 | ▲ 71.1 | ▲ 18.7 |
| 09年度下期 | 利益 | 18.1 | 4.8倍 | 20.1 |
| 10年度上期 | 3.5倍 | 7.5 | 2.8倍 | 11.9 |
| 10年度下期 | 2.7 | 19.6 | 12.2 | ▲ 2.5 |

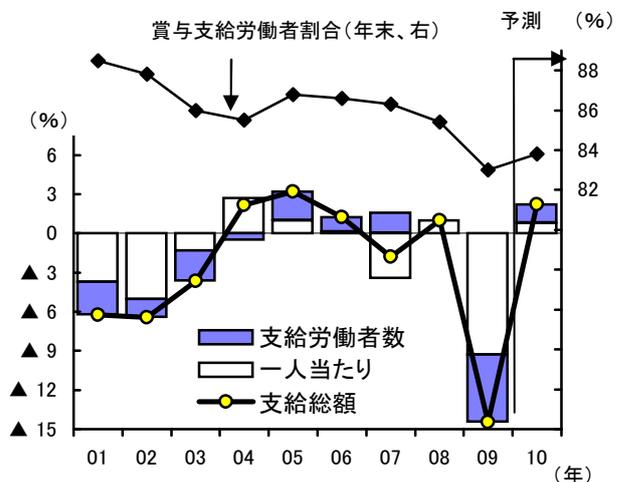
(資料) 日本銀行

図表3 年末賞与の平均金額の推移



(資料) 厚生労働省
(注) 事業所規模5人以上の89年以前は、事業所規模30人以上実績からの推定値。

図表4 賞与支給総額の推移



(資料) 厚生労働省